

原爆被爆者二世健診を受診の方々へ

Q1 多発性骨髄腫とはどんな病気ですか？

A1 異物から私達の体を守ってくれている細胞に異常が起こる病気です。

私達の体では、「骨髄」という場所で白血球や赤血球、血小板などの様々な血液細胞が作られています。体の中に異物が入ってくるとその骨髄で作られた「形質細胞」と呼ばれる細胞が「抗体」という蛋白質を作って異物を攻撃することで体を守っています。

多発性骨髄腫では、この形質細胞がガン化してしまい、異物を攻撃する力の無い抗体(M蛋白と呼ばれています)しか作れなくなるため、体に様々な悪い症状が出てしまいます。

血液成分が減少する	骨に障害が起こる	腎臓の機能が低下する	その他の症状
★赤血球が減ると貧血になり、めまいや疲れやすさ、息切れなどが出ます。  ★白血球が減ると風邪や尿路感染症にかかりやすくなります。 ★血小板が減ると出血しやすくなり、青あざや鼻血が出やすくなります。	★骨折しやすくなり腰や背中の痛みが出ます。  	★腎臓にM蛋白が溜まると腎機能が低下し、尿が減ったり、むくみやすくなります。 	★血液にM蛋白が溜まると、血液がドロドロになり、頭痛や目の見えにくさを引き起こします。  ★心臓や神経、消化管にM蛋白が溜まると、不整脈や手のしびれ、下痢などを起こします。

日本には約15000人の患者さんがいるといわれ、50歳代から加齢に伴って発症率が増加しています。

Q2 どんな検査をしますか？

A2 まずは血液検査で総蛋白とアルブミンをチェックします。

血液中の蛋白質やアルブミンの量や種類を調べることでM蛋白が含まれているかどうかを確認できます。この検査は通常の採血で行う血液検査と一緒に無料で追加することができます。血液中にM蛋白を認めた場合は、かかりつけ医、あるいは血液専門の内科にご相談ください。

Q3 白血病と同じですか？

A3 血液ガンの一つですが、白血病とは異なります。

白血病も多発性骨髄腫も血液細胞がガン化する血液ガンです。ただし、白血病では白血球や赤血球などの血液の元になる細胞(造血幹細胞)がガン化しますが、多発性骨髄腫では形質細胞のみがガン化するので、全く異なる病気です。